

漢方治療の特徴を表現するものとして「鍵と鍵穴」という言葉が用いられることがあります。これ、いったいどういう意味なのでしょう。

◆漢方処方とその適応となる人との関係は「鍵と鍵穴」という意味だとすると、ホントにそうなのでしょうか？

◆漢方治療では「鍵と鍵穴」のようにぴったりくる人がいて、そのような人に効果があるのだとすると、あまり普遍的な治療ではないということになってしまわないのでしょうか？

「鍵と鍵穴」なら全ての要求と対応がぴったり合致し、まさに「あなたのために…」ということになります。いつもそうならこれぞオーダーメイド治療、「この処方の生薬配列はあなたのためだけに」なのだから文句のつけようありません。

しかし、全て漢方処方と呼ばれるものの生薬配列はすでに決められており、なにも「あなたのために」ではないはずです。何度もお話しているように、漢方薬とは生薬を用いた約束処方。だったら全ての要求と対応がぴったり合致するなんて確率はあまり高くはないはずです。もし「あなたのために…」と言うならば、そうしたら漢方薬の種類は果てしなく用意されていなければなりませんし、無限とおりの組み合わせが成立していなければならないことになります。でも現実にはそうではありませんね。

生薬の複合剤である漢方処方を用いるとは、

「目の前の患者に必要な生薬配列が含まれる処方を選択する」ということであるはずです。「その同じ生薬配列をもつ処方のなかでも最も適切と思われるものを選択する」ということであるはずです。要するに既製のセットのなかから、最も合目的的なものを選び出す作業ということです。世の中にはいろいろな患者さんがいらっしゃいますが、その全ての方々にまさにぴったりの配合が常に用意されているわけではない。だから、「最も合目的なものを選び出す」ことが要求されるわけです。それはちょっとずつ異なった事情を抱えた患者に共通する「合鍵」を探すことと言っても同じこと。いつもいつもぴったり「鍵と鍵穴」が成立するとは限らないのです。

知識を超えて思考の世界へ。どうぞわれわれがご用意いたしました診察室へお出かけください。さあ、本日も漢方診療のはじまり、はじまり。

【本日の内容について、ご確認ください】

桂枝甘草湯：桂枝、甘草

桂枝加桂湯：桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草

桂枝加竜骨牡蛎湯：桂枝、芍薬、生姜、大棗、甘草、竜骨、牡蛎

小柴胡湯：柴胡、黄芩、半夏、人参、生姜、大棗、甘草

柴朴湯：柴胡、黄芩、半夏、人参、生姜、大棗、甘草、紫蘇葉、厚朴、茯苓

柴胡加竜骨牡蛎湯：柴胡、黄芩、半夏、人参、生姜、大棗、竜骨、牡蛎、桂枝、茯苓

柴胡桂枝乾姜湯：柴胡、黄芩、瓜呂根、桂枝、牡蛎、乾姜、甘草

四逆散：柴胡、枳実、芍薬、甘草

大柴胡湯：柴胡、枳実、芍薬、黄芩、半夏、生姜、大棗、大黄

調胃承気湯：大黄、芒硝、甘草

大承気湯：大黄、芒硝、厚朴、枳実

ポイント

- 近似処方とその違い
- 近似処方が存在する理由

浅岡俊之

www.asaoka.org

今回からご参加の先生方へ

漢方薬の適応を表現している条文というものをご覧になられた方もいらっしゃるでしょう。『〇〇で△△があり◇◇のもの』という具合にその処方薬の適応をあらわした文章のことです。どうして条件が1つではないのか。それは漢方薬が複数の生薬の複合剤だから、それ以外に何の理由もありません。

西洋薬を例にとって考えてみましょう。ここに1枚の処方箋があったとします。そこに3種類の薬剤が記されており、その3種類の薬剤をひとつのセットと認識したとします。

Rp) カルシウム拮抗薬
スルフォニルウレア
スタチン

さていかがでしょうか。このセットの適応を表現するための文章はきっとこうなることでしょう。『血圧が上昇し血糖が高くコレステロールが異常高値のもの』

それでは次、この処方箋だったら…

Rp) カルシウム拮抗薬
スルフォニルウレア
スタチン
ビタミンB12

『血圧が上昇し血糖が高くコレステロールが異常高値のもの、ただし下肢にしびれあり』

漢方薬の場合はどうでしょうか。

Rp) 半夏
生姜
茯苓

この処方箋には次のような条文が用意されています。

『にわかに嘔吐し、心下痞し、膈間に水ありて眩悸するもの』

半夏・生姜が___の部分、茯苓が___に対応しているに過ぎません。「小半夏加茯苓湯」という名は上記の組み合わせに対して与えられた「記号」なのであり、その条文を左右するものではありません。

漢方薬は東洋医学のルールに従って創られた薬剤です。その運用はあくまで東洋医学の尺度でしか正確には行えないことを繰り返しお話しております。しかし、その条文がどのような根拠で書かれているかなどという根源的なことに関しては東洋医学にも西洋医学にも違いはありません。「そこに配合されている材料による」のは当たり前のことなのです。

上記の西洋薬の場合にはそれぞれひとつひとつの薬剤をセットに入れるか否かはその時の状況によって選択することができます。しかし漢方薬はあくまで約束処方です。既存のセットを用いるかぎり、全ての生薬がリクエストに沿ったものとは限らないわけです。もし「全てがぴったり」という人にしか用いないのだとすると、その適応となる方の数は限定されることになるはずです。